

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1	前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育を中心に据え、「対話」を通じた授業実践を行い、心の教育の推進を図ることができた。次年度は、家庭・地域とのつながりを通じたさまざまな「対話」を取り入れ、「自己対話」の充実を課題として取り組んでいく。 ・学習状況調査の結果から、学力向上においては十分どころまでは至らなかった。そこで、共通した朝学習の取り組み、各教科における小テストや単元テストの実施、めあての提示の工夫、タブレットの有効な活用に取り組み、学力の向上を図っていく。 ・今後もいじめの早期発見や交通事故ゼロに取り組んでいくとともに、交通マナーやルールの遵守が全体に浸透するよう、家庭や地域とも連携を図りながら取り組んでいく。
2	学校教育目標	「純美にしてファイトに富む学校」 ～信頼・温もり・ユーモア神中～ ～チャンス・チェンジ・チャレンジ～
3	本年度の重点目標	①心の教育の推進 ②学力向上に向けた共通理解と共通実践 ③行事を通じた進路指導・キャリア教育の充実

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

重点取組	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・主体的に学ぼうとする態度と知識・技能の習得に向けた取り組み	○「スキルタイムに意欲的に取り組んだか」に肯定的な生徒80%以上	・知識・技能の習得に向けたスキルタイムの実践(生徒会学習委員の活動を生かした取り組み)	B	・「スキルタイムに意欲的に取り組んだか」に肯定的な回答をした生徒は全学年ともに90%だった。 ・学習状況調査の結果、分析をし、全教科において「書く活動」の場を工夫して設定することを、今後の共通実践に生かすことができた。	B	・スキルタイムに意欲的に取り組んだか」に肯定的な回答をした生徒は1年84.2%、2年90.2%、3年94%だった。 ・授業の中で「書く活動」の場を工夫して設定している」に肯定的な回答をした教職員は96%だった。学力状況調査の結果を分析し課題について全職員で共通理解し、授業づくりに活かすことができた。	B	・肯定的な回答が多くても、各生徒の学習に対する目標レベルにはばらつきがあるので、これだけでは評価は厳しいと思う。アンケート内容の見直しが必要。 ・結果が目に見えることでスキルタイムへの意欲も出るので、短期間で培われた結果を可視化したらどうか。	学力向上対策コーディネーター
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●「道徳の授業で学んだことを、日頃の生活に生かしていると思う」に肯定的な回答をした生徒80%以上。	・道徳科の授業においては、他者との対話活動も行うが、特に振り返り(自己内対話)の時間を重視する。 ・道徳アンケートの実施。	B	・7月に行った道徳アンケートで「道徳の授業で学んだことを、日頃の生活に生かしていると思う」に肯定的な回答をした生徒81.9%と目標を達成することができた。 ・1月に行うアンケートではより高い数値を目指す。	B	・1月に行った道徳アンケートで「道徳の授業で学んだことを、日頃の生活に生かしていると思う」に肯定的な回答をした生徒84.4%と前回よりも高い数値となり、目標を達成することができた。	A	・各種行事の取組や地域社会との関わりの中でも、授業で学んだことを活かした実践力や行動力へつながっており、道徳教育の成果が出ていたと感じる。	校内研究推進 人権・同和教育 道徳教育
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめや差別をなくすよう行動している生徒が90%以上 ●安全・安心に学校生活が送れている生徒が90%以上	・毎月生活アンケートを実施し、相談しやすい雰囲気作りを努める。 ・昼休みの校内巡回を通して、問題行動の未然防止を図る。	B	・いじめや差別をなくすよう行動できている生徒は90%以上だが、実際にいじめ事案が7件発生しているため、経過の見守りや再発防止に努める。 ・事後指導だけでなく未然防止の取り組みを全職員で徹底する必要がある。	B	・いじめや差別をなくすよう行動できている生徒はどの学年においても90%以上であった。しかし、最終的ないじめ事案の数は10件であった。 ・未然防止の取り組みについて、あらためて学校全体で協議していく。	B	・子どもたちだけの時間を作らないようにするのは難しいが、休み時間の引継ぎをするなどの環境づくりをしてほしい。ただ、見張りという感覚ではなく、生徒と教職員のコミュニケーションの機会として捉え、生徒が話しやすい、相談しやすい雰囲気を作り、未然防止につなげてほしい。	生徒指導主事
●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●◎「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・行事などにおいて、「出番」「役割」「承認」の機会を多く作り出し、過程に焦点を置き、認められる環境づくりに努める。 ・直接話を聞いたり、体験したりする機会を設けることで進路指導の充実を図る。	B	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒は、2、3年生は80%以上だったが、1年生は77.4%にとどまった。今後、将来の夢や進路について話を聞いたり、体験したりする進路指導の充実を図る必要がある。	B	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒は、3年生は80%以上だったが、1年生は74.1%、2年生は75.5%にとどまった。将来の夢や進路について話を聞いたり、体験したりする進路指導は増えているため、自分の夢や目標を肯定的に受け留められる土台づくりが必要である。	B	・生徒の良い面をより伸ばしていく、良い方向に興味を向けていく努力を続けてほしい。 ・コロナ禍の影響を受け、日本の社会全体が何か目標や見通しがもてない風潮があり、これを打破する学校教育が必要と思う。 ・自己肯定感を高めるために、職場体験など総合的な学習の充実化を図ってほしい。	進路指導主事 特別活動担当
	○(学校独自重点取組・任意)	○	・							
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」児童生徒95%以上	・出前セミナーなどを活用し、食についての知識を深めさせ、食を見直す機会を設ける。 ・給食を通して、望ましい食習慣を身に付けられるよう指導する。	B	・「健康に良い食事をしている」について肯定的な回答をした生徒は、3年生は95%以上だったが、1、2年生は成果指標を超えることができなかった。出前セミナーや生活習慣チェックなどを行ったが、食育推進の取組についての、保護者と教職員の回答が90%に満たなかった。給食指導の充実化や家庭との連携を図っていく。	B	・食の大切さ理解し、健康に良い食事に心がけている生徒回答では、そう思うとしたいと思うで全学年ともに90%を超える高い数値が見られた。学校の給食指導など健康教育を推進しているかの保護者の回答は、そう思うと大体そう思うで90%に近い数値が見られた。生徒と保護者ともに食に関する意識が少しずつ高まっているようである。さらに望ましい食習慣育成の定着を図るための取り組みをほしい。	B	・健康に良い食事についても保護者の協力が不可欠なので、更なる情報提供や家庭での情報共有を進めてもらいたい。 ・食への感謝、命をいただくという点では道徳の授業と関連付けることも必要。 ・残菜対策は他校の情報を得ながら進めていく必要がある。	給食指導担当
○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・								
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議資料のデジタル化による会議時間と会議資料準備の短縮に努める。 ・掲示板機能を生かした業務の可視化に努め、見通しをもった業務遂行を目指す。	B	・会議資料のデジタル化は継続して取り組んでおり、資料等の準備の短縮にはつながっている。 ・今年度から新たに取入れた「掲示板」は、10月末において228件の入力があった。業務の可視化とともに、職員連絡会の時間短縮にもつながっている。 ・これらの取組が、時間外在校等の時間短縮につながるよう今後も取り組んでいく。	B	・会議資料のデジタル化、掲示板の積極的な活用により会議時間の短縮を図ることができた。また、職員連絡会を金曜の朝の時間から水曜の会議前に移したことで、余裕をもって連絡を行うことができた。 ・学校評価アンケートにおいて、時間外勤務の削減に努めていると回答した教職員が100%となっており、2学期以降は時間外勤務の時間も減っている。しかし、時間外勤務の多い教職員が固定化されているため、今後も引き続き取り組んでいく必要がある。	B	・管理職の指導の成果が表れており、100%の教職員が時間外勤務の削減に努めているのは素晴らしいことである。時間外勤務削減のために部活動時間を年間通じて等しくするのは有効だと考えられる。 ・表面上の課題とは相反するかもしれないが、先生方の生徒に対する思いや職務に対する熱意を大切に続けてほしい。	管理職
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・							
	●特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○「特別支援教育に関する専門性が向上した」と回答した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有	B	・夏季休暇で遠征指導教室についての研修を行った。また、7月頃に特別支援学級担任に対して個別の支援計画や自立活動に関する研修を行った。 ・「特別支援教育に関する専門性が向上した」と回答した教員は数値目標の80%であったが、7名(20%)は「そうは思わない」であった。 ・通常学級で支援が必要な生徒について巡回相談を行ったり、授業の様子などの情報を教員間で共有している。一方で、特別支援学級だけでなく、通常学級に在籍する、支援が必要と思われる生徒に必要な支援方法などについての研修を行う必要がある。	B	・特別支援教育の職員連絡会で、支援学級の生徒の報告や、特別支援教育支援員の先生方による各クラスの各月の支援状況や見取りの内容を回覧している。特別支援教育だけでなく、生徒指導も含めた支援・指導を考えた把握したりする機会になっている。アンケート「諸会議等での情報共有を通して、特別支援教育に関する専門性が向上した」の項目では、「そう思う」が44.8%、「だいたいそう思う」が55.2%であった。 ・「そう思う」が50%に満たないのは、会議が情報共有に留まっているため専門性の向上に結びついていないと考えられる。そのため情報共有にとどまらず、夏季研修会で分析するなど専門性を向上させることが必要である。	B	・少子化、支援を要する生徒の増加に伴う対応であり、様々な状況の変化に適切な対応をしていると思う。 ・必要とされる支援が生徒によって異なるので、引き続きチームで対応してほしい。 ・教職員の意識や取り組みはよく配慮され、充実していると思う。	特別支援教育コーディネーター

重点取組	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○心の教育の推進	○家庭・地域とのつながりを通じた道徳科のさまざまな「対話」を取り入れた道徳科の授業実践	○「道徳の授業で学んだことを家庭で話している」に肯定的な生徒60%	・家庭で道徳の授業について話をする日の設定 ・道徳通信の発行	C	・7月に行った道徳アンケートで「道徳の授業で学んだことを家庭で話している」に肯定的な生徒は45.2%と7月アンケートと比べると4ポイント上昇したが、目標の50%の達成はできなかった。	B	・道徳アンケートで「道徳の授業で学んだことを家庭で話している」に肯定的な生徒は45.2%と7月アンケートと比べると4ポイント上昇したが、目標の50%の達成はできなかった。	A	・「家庭で話している」の判断の視点をどこに置くにによって違ってくると思われる。アンケート内容を「道徳で学んだことを家庭で実践できているか」に変更したらどうか。 ・道徳で学んだことを地域社会で実践できている。	校内研究推進 道徳教育
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										
5	総合評価・ 次年度への展望	・道徳教育においては、5年間研究をしてきた成果が地域社会の中での実践力として表れていた。今後も引き続き、道徳教育の充実化を図っていくとともに、地域・家庭とのつながりを深めていく取り組みをしていく。 ・学習状況調査の結果を分析し、全職員で本校の課題を把握することで共通理解・共通実践につなげることができた。来年度も課題である「読解力」と「書くこと」を重点項目に置き、スキルタイムの充実化や「書く活動」の場の工夫など授業改善を図っていく。 ・今後もチーム体制でのいじめの早期発見、早期対応に取り組んでいく。また、学校行事やキャリア教育等を通して自己肯定感を高めたり、支持的風土を醸成する活動の充実化を図ったりして未然防止に取り組んでいく。								